

# JAICOH NEWS LETTER

NO:72 2014年9月発行



歯科保健医療国際協力協議会

Japan Association of International Cooperation for Oral Health

〒271-8587 松戸市栄町西 2-870-1 日本大学松戸歯学部 生化学・分子生物学講座内

URL: <http://jaicoh.org/> Email: [info@jaicoh.org](mailto:info@jaicoh.org) Tel: 047-360-9328

郵便振込: 00140-9-599601 歯科保健医療国際協力協議会

発行: 河村康二 編集: 中久木康一

## JAICOH 代表就任挨拶

歯科保健医療国際協力協議会 (JAICOH) 会長 河村 康二

歯科保健医療国際協力協議会は、歯科保健医療の国際協力を推進するため、必要な研修及び調査・研究を行いつつ会員の親睦を図り、世界の歯科保健医療の発展向上に寄与することを目的に 1990 年に創立された会です。

私は、埼玉県川口市で開業する歯科医師ですが、南太平洋医療隊に所属し 1998 年より主にトンガ王国でボランティア活動を行っています。協議会には 2004 年から活動の報告と情報を得たいために参加しました。活動は歯科医師の留学の支援に始まり、笑顔を意味するマリマリプログラムと名付けた歯科保健システムを確立しました。国全域のヘルスセンター、幼稚園、小学校で、う蝕の予防と軽減を実現しました。2013 年から、世界第2位の肥満国という視点から、JICA (国際協力機構) と共同で「トンガ王国における口腔保健のアプローチから生活習慣を改善するプロジェクト」を実施しています。歯周病の初期治療から生活習慣を改善し、トンガ人の肥満、糖尿病、心血管・循環器疾患等の生活習慣病の予防に取り組んでいます。

世界では、2015 年までに達成すべきミレニアム開発目標として、自由と平等などが不可欠であるという考えのもと、8つのゴールが掲げられていますが、いまだ多くの国や地域で健康水準や保健医療の発達程度により、健康格差が存在しています。

本協議会には、歯科医療の立場から発展途上国のために、国際協力を行う歯科医師、歯科衛生士、歯科技工士、歯科大学学生、大学教員、NGO 団体、JICA 等で活動している個人、団体等が多く参加しています。

本会では、7月初頭の総会・学術集会と学生研修会、年数回の研修会の開催、年4回のニュースレターの発行により、発展途上国の人々の為に寄与する方々の情報交換の場を提供し、国際協力に関する手法、取り組みについて様々な発表を行っています。

歯科医療従事者が発展途上国に関わるとき、口腔の問題だけでなく全身の健康さらに社会環境の改善を同時に行えるような取り組みが必要とされています。今後、本協議会に様々なジャンルの医療従事者や保健関係者がますます参加していただければ幸いです。何卒よろしくお願いたします。

## JAICOH 代表離任挨拶 「JAICOH の活動に想うこと」

H26 年夏 白田千代子

皆様のご支援ご協力のもと、2期4年間、会の会長を務めさせていただきました。前会長の意志を受け継ぎ、若い人たちのため、歯科衛生士のための企画にご賛同いただき、活動を支えてくださった皆様に心より感謝いたします。

その間、若い歯科医師を目指す学生さんや歯科衛生士を目指す学生さんに、会主催の勉強会に参加をいただき、時代は変わり、目指す課題は違っていても、海外で歯科に関する活動を試みたいと考えている次世代の方々が存在することに、共感を覚えました。

任期中、東日本大震災、津波、原発事故・・・に、海外での活動を生かし、災害支援（現在も活動続行中）をし続けた人々が会員に存在していたことにも、勇気をいただきました。思いもかけない災害支援は、緊張した臨機応変に対応を迫られる海外での活動とは全く違っていても、行動を実現するところに、どこか共通するものがあるのかもしれない。

JAICOH 第 25 回学術集会は、モンゴル特集でした。黒田先生が、モンゴルで活動することになったきっかけや、長期にわたり活動してきた経緯が手に取るように報告されていました。海外での長期継続活動の成功グループには、共通点がいくつかあります。それは、「仕掛け人（モンゴルでは黒田先生）は、素晴らしい仲間を持っている。仕掛け人は、すべてのことに気を配っている。外国人も日本人も分け隔てなく楽しそうに一緒に活動している。活動を日常的に現地の人やし続けている。・・・」などです。新たに活動を始められた方々にも、学術集会の内容は役立つことだと思います。

JAICOH が目指してきた、「海外の人と共に活動するグループの人々が、気楽に意見交換や情報交換ができる場として、時には協力し合える場として、そして新たに活動を開始し始める人のための場として」今後もその場が続く事を祈念いたします。

## 第 25 回歯科保健医療国際協力協議会 学術大会 開催報告

黒田耕平（日本モンゴル文化経済交流協会、生協なでしこ歯科）

2014 年 7 月 6 日に神戸国際会議場に於いて、「第 25 回 JAICOH 総会および学術集会」を開催しました。参加者は 88 人で、特に午後からのモンゴル特集ではモンゴルでの活動に参加したことのある人達や、現地に行ったことはないが日本で協力していただいている方々が多く参加されました。テーマは、「継続の成果と課題」としました。

午前中に一般演題を口演9題、午後の最初にポスター発表2題行いました。

午後からは「モンゴル特集」として、24年間継続してきた歯科医療協力による成果と課題を話してもらうために、日本とモンゴル両国から2名ずつ報告してもらい、その後参加者との意見交換も行いました。今回は特に、交流のきっかけと経過、そして交流活動に対する思いを述べてもらうために、人選に配慮しました。日本側からは、最初から関わって来られた日本モンゴル文化経済交流協会の佐藤会長と、20年以上交流活動の現場で貢献してこられた歯科衛生士の米花さんを、モンゴル側からは、1992年から交流の受け手側となって来られたエネレル歯科診療所のイチンホルロー先生と、交流活動の現場で受け入れを行ってくださっているエネレルの歯科看護師サラントヤさんに、日本側と受け手側の率直な思いを語ってもらいました。



長い間続けている交流活動が、人と人とのこころの交流を深め、強いきずなと信頼を築いてこられたことが確認できました。しかし、受け手側の国の発展や変化に合わせて交流活動をさらに効果的なものへと成長させていくことは大変な努力を要します。受け手側の自立を大きな目標として置き、受け手側の一人ひとりの幸せをも願いながら、ともに成長していくことが継続の力ギになると再認しました。



その後の懇親会でも、ほとんどの方が参加され親しく懇談できたことは、モンゴル側の二人にも力強い励ましになったようです。多くの皆様のおかげで、今回の大会を無事終えることができたことに感謝いたします。

## 第25回歯科保健医療国際協力協議会学術大会 参加報告

南太平洋医療隊，九州歯科大学老年障害者歯科学分野 遠藤眞美

テーマ： 国際歯科保健活動から学ぶものと受け手側の思い  
会長： 黒田耕平（日本モンゴル文化経済交流協会、生協なでしこ歯科）  
場所： 神戸国際会議場（兵庫県神戸市）401・402号室  
期日： 2014年7月6日（日）9：20～15：50

平成26年7月6日（日曜日）に神戸国際会議場にて、第25回歯科保健医療国際協力会議総会および学術集会に参加してまいりました。



テーマは『継続の成果と課題～モンゴル特集～』ということで、長年、モンゴルにおいて国際協力を行ってきた黒田先生が会長でした。

午前は、一般演題としてベトナム、ミャンマー、モンゴル、スリランカ、ブータン、トンガなどでの具体的活動から、国際協力のシステムなどについて合計9演題の口頭発表と2演題のポスター発表がありました。

午後からは、モンゴル特集として、日本モンゴル文化警戒交流協会 会長 佐藤紀子様からは『モンゴルと日本の歯科医療交流のはじまり』、大阪発達療育センター 歯科衛生士 米花佳代子先生は『交流の経過と成果、日本側の思い』、エルネル歯科診療所 所長 M. Ichinkhorloo 先生の『日本との交流を続けて。経過と成果、課題』、同診療所の歯科看護師 Ts.Sarantuya 先生から『交流を通して成長できた事、感じる事』という演題で情熱のこもった4つのご講演がありました。また、質疑応答では大会長である黒田先生も参加され、まさに『the モンゴル特集』という活気にあふれた時間でした。

4人の先生方のお話では、日本からの活動が「してあげようか」を基本にしてしまうところ、モンゴル人自身が行なう活動を目指して「与える場ではなく学ぶ場、理解する場」として相手の立場になることに徹し、歯ブラシ工場まで作られてきた活動の歴史を学びました。また、モンゴルの先生方が日本の歯科診療室を見学された際に「誰も泣いていない。これが自分の仕事なんだ」と思ったと単純でかつ素直なフレーズには、目標提示をただけで、まさに「理解する場」になったのだと改めて気付かされました。そして、最後に、「人と人の出会いが、たし算ではなく、かけ算になってほしい」という言葉も印象的でした。

モンゴルにおける25年間にわたる成果を知ることができました。特に私が聴講して感じたことは、各人の思い、そこから生まれた縁によって始まった活動の継続を通して、日本とモンゴルの関わる皆様の絆や信頼関係の強さでした。それが挫折しそうになっても長く継続している原点のように思いました。自分も同じように絆を強めることができるのだろうか？と思いながら、相手国の国民性に配慮して協力している先生方の真摯な活動を目標の一つにしたいなと思うことができました。私は南太平洋医療隊の一員としてトンガ王国で活動を行っていますが、このように他の団体の方々のお話は刺激になります。このように様々な団体が発表し、ディスカッションのできるJAICOHに改めて感謝して、これからも出会いを大切にして活動を続けていきたいと思える会でした。



モンゴル特集では様々な質問が出てつきませんでした。時間になり、別の会場で質問タイムを含んだ懇親会が行われました。学術大会の興奮のまま会場へ移動したこともあり、終了時間となっても多くの皆様が語らい、活発な意見交換がなされていました。

黒田先生を始め、スタッフの皆様、お疲れ様でした。

## JAICOH 参加団体紹介

### ～ 東ティモール医療友の会～

## Alliance of Friends for Medical-care in East Timor (AFMET)

<http://afmet.com>

代表 小林 裕



### <発足の経緯と活動>

1991年から1999年まで、カトリック聖母訪問会の医師であるシスター亀崎は、毎年東ティモール・ラウテン県ロスパロス市郊外のフィロロ村を訪れ、貧困と病に苦しむ人々に対して医療活動を行ってきました。そのあとを受け、AFMETはプライマリヘルスケア(PHC)を理念として1999年5月に設立されました。同年9月の独立投票後に起きた騒乱後は同地で緊急医療活動を開始し、並行してPHCの担い手となるコミュニティー・ヘルスワーカー(CHW)の養成セミナーを各村で進めてきました。養成コースを卒業したCHWはそれぞれの部落で自ら保健セミナーを開催し、村人の病気・予防・衛生についての意識改革に貢献してきました。2008年からは、国の政策として保健省主導の住民参加型総合保健サービス(SISCa)が開始され、各村で月に一度、乳幼児の検診、妊産婦検診、住民に向けた保健衛生セミナーを行っています。ここで大きな役割を担っているのが保健ボランティアですが、AFMETが養成してきたCHWの多くが保健ボランティアとして選出され活躍しています。村での保健セミナーを行う際の大きな悩みがきれいな水の供給とトイレの問題でした。AFMETは2009年からコミュニティー主導の全村型環境衛生活動、CLTS(Community-Led Total Sanitation)という手法を使って、村の家々にトイレの設置を促すと同時に、村の各家庭に水を供給する水利施設の設置事業を推進してきました。近年に至り、CHWを中心とした「生活保健助け合いの会」を各村に設立し、メンバーによる薬草を応用したハーバル石鹸の製造・販売を開始しました。更に各々の村の「生活保健助け合いの会」代表者が代表者会議(FINI)を結成し、彼ら自身の手で首都ディリへ石鹸販売経路の拡大や収入・支出金のマネージメントを行い、本年度中には東ティモール政府からNGOとして認定され、資金援助を受けようとしています。現在AFMETは、オランダに本部がある団体、「Hivos」と協働で「衛生的なかまど普及事業」をラウテン県で展開しています。歯科保健に関しては、毎年県保健局の歯科保健担当者と共に遠隔地の部落や小学校を訪問し、歯科検診、歯科保健セミナーなどを実施しています。2007年には特定非営利活動法人として設立し、2013年度の会員数は約60名です。

### <活動理念>

すべての人々の人権を尊重し、人種、国籍、宗教、信条にとらわれず、平等、公平な協働活動を行うすべての人に開かれた法人とし、日本のみならず世界に於いてこの法人の目的に賛同する人々と共に、東ティモールの人々に対して、プライマリ・ヘルスケアの普及啓発など健康に関する事業を行い、平和の推進に寄与することを目的としています。

### <今後の活動予定>

現在進行中である「衛生的なかまど普及事業」を継続して行くと同時に、住民に森林伐採が環境におよぼす影響についての情報提供をし、バイオガスを代表とする代替え燃料使用の可能性についても検討して行きたいと思っています。また、ラウテン県に隣接するバウカウ県の遠隔の村に於いてもPHCの普及啓発事業を展開して行くことも計画しています。

## 事務局より

### ◆2013年度 JAICOH 事業報告 (2013年7月～2014年6月)

- 2013年07月07日 第24回総会・学術集会開催(東京医科歯科大学、白田千代子先生)  
 12月 JAICOH ニュースレター(第69号)発行  
 2014年02月 JAICOH ニュースレター(第70号)発行  
 03月26日 「国際歯科保健医療協力 NGO ディレクトリー」改訂  
 03月29日 冬の研修会開催(東京医科歯科大学)  
 「人道支援の品質管理や説明責任についての国際基準を知ろう！  
 ～スフィア・スタンダード、HAP 基準 2010～」  
 原田奈穂子先生(Boston College School of Nursing、防衛医科大学校)  
 05月 JAICOH ニュースレター(第71号)発行  
 05月 「世界へはばたけ、歯科衛生士～歯科衛生士と国際歯科保健医療協力～」発刊  
 (第24回 JAICOH 学術集会)

### ◆2013年度決算書(自平成25年7月1日～至平成26年6月30日)

平成25年度(2013年度)決算書(自平成25年7月1日～至平成26年6月30日)				
歳入の部				
款	項目	平成25年度歳入予算	平成25年度歳入実績	説明
会費	普通会员	¥200,000	¥201,000	普通会员42件(2011年度1、2012年度3、2013年度34、2014年度1)、学生会員3件
	維持会員	¥100,000	¥70,000	維持会員7名分
	その他	¥0	¥0	
	小計	¥300,000	¥271,000	
寄付金	事務局関係	¥20,000	¥4,556	JAICOH24より余剰金寄付
	シーズプロジェクト	¥100	¥0	
	その他	¥50,000	¥50,000	寄付(個人)
	小計	¥70,100	¥54,556	
雑収入	ニュースレター広告料	¥100	¥0	
	研修会当日参加費	¥60,000	¥28,000	
	銀行利子	¥100	¥0	
	その他	¥100	¥0	
	助成金	¥0	¥0	
	小計	¥60,300	¥28,000	
前年度繰越金		¥1,117,336	¥1,163,536	
歳入の合計		¥1,547,736	¥1,517,092	
歳出の部				
款	項目	平成25年度歳出予算	平成25年度歳出実績	説明
会議費	役員会	¥15,000	¥0	開催せず
	総会・学術集会	¥100,000	¥100,000	第25回学術集会事務局へ
	会場借上料	¥5,000	¥0	
	小計	¥120,000	¥100,000	
事務費	通信費	¥5,000	¥3,830	振込手数料、領収書送料
	印刷費	¥200,000	¥126,589	ニュースレター3回 No69-No71(送料含む)
	消耗品費	¥2,000	¥105	
	小計	¥207,000	¥130,524	
事業費	研修会	¥50,000	¥28,000	3/29講師料、懇親会補助金
	広報事業	¥1,800	¥1,852	ドメイン更新
	シーズプロジェクト	¥100	¥0	
	小計	¥51,900	¥29,852	
渉外費		¥100	¥0	
備品費		¥100	¥0	
積立金		¥100	¥0	
予備費		¥5,000	¥0	
次期繰越金		¥1,163,536	¥1,256,716	郵便局口座¥1098154円
歳出の合計		¥1,547,736	¥1,517,092	

7月に行われました第25回学術集会は、初の関西での開催となりました。同時に開催された総会にて役員改選が行われ、河村康二先生が会長に選出されました。

2期4年を務めた白田会長、お疲れ様でした。今号も私が担当させていただきましたが、これから、円滑に新執行部に引き継ぎたいと思います。ご協力ありがとうございました。(中久木)。